

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載  
 【部門区分】第 6 部門第 3 区分  
 【発行日】平成 22 年 3 月 11 日 (2010.3.11)

【公開番号】特開 2008-226010 (P2008-226010A)  
 【公開日】平成 20 年 9 月 25 日 (2008.9.25)  
 【年通号数】公開・登録公報 2008-038  
 【出願番号】特願 2007-65330 (P2007-65330)  
 【国際特許分類】

G 0 6 F 9/45 (2006.01)

G 0 6 F 9/44 (2006.01)

【 F I 】

G 0 6 F 9/44 3 2 0 F

G 0 6 F 9/44 3 2 2 A

G 0 6 F 9/06 6 2 0 K

【手続補正書】  
 【提出日】平成 22 年 1 月 21 日 (2010.1.21)  
 【手続補正 1】  
 【補正対象書類名】特許請求の範囲  
 【補正対象項目名】全文  
 【補正方法】変更  
 【補正の内容】  
 【特許請求の範囲】  
 【請求項 1】

記憶手段に記憶した第 1 の文字コードに対応したソースプログラムを第 2 の文字コードに対応したソースプログラムに変換するコンパイル装置におけるコンパイル方法において

、  
前記コンパイル装置は、プロファイル情報出力手段と、プロファイル更新処理埋込手段と、コンパイル実行手段とを備え、

前記プロファイル情報出力手段は、前記第 1 の文字コードに対応したソースプログラムのプロファイル情報を解析して第 1 のプロファイル情報を生成して前記記憶手段に出力し

、  
 前記プロファイル更新処理埋込手段は、ロードモジュールの実行時に必要なプロファイル更新処理を、前記第 1 の文字コードに対応したソースプログラムからロードモジュールを生成する過程で埋め込み、

前記コンパイル実行手段は、前記ロードモジュールを実行することにより埋め込まれた前記プロファイル更新処理を実行し、前記記憶した第 1 のプロファイル情報を参照して第 2 のプロファイル情報を生成して前記記憶手段に出力することを特徴とするコンパイル方法。

【請求項 2】

前記コンパイル装置内に、ソースプログラム変換手段をさらに備え、該ソースプログラム変換手段は、前記第 2 のプロファイル情報に基づいて、前記第 1 の文字コードに対応した前記記憶したソースプログラムを前記第 2 の文字コードに対応したソースプログラムに変換することを特徴とする請求項 1 記載のコンパイル方法。

【請求項 3】

前記ソースプログラム変換手段は、前記第 2 のプロファイル情報で定義された第 2 の文字コードの最大長を 1 から 2 に設定することにより、前記第 1 の文字コードに対応した前記記憶したソースプログラムを前記第 2 の文字コードに対応したソースプログラムに変換することを特徴とする請求項 2 記載のコンパイル方法。

## 【請求項 4】

記憶手段に記憶した第 1 の文字コードに対応したソースプログラムを第 2 の文字コードに対応したソースプログラムに変換するコンパイル装置において、

コンパイル装置は、プロファイル情報出力手段と、プロファイル更新処理埋込手段と、コンパイル実行手段と、ソースプログラム変換手段とを備え、

前記プロファイル情報出力手段は、前記第 1 の文字コードに対応したソースプログラムのプロファイル情報を解析して第 1 のプロファイル情報を生成して前記記憶手段に出力し、

前記プロファイル更新処理埋込手段は、ロードモジュールの実行時に必要なプロファイル更新処理を、前記第 1 の文字コードに対応したソースプログラムからロードモジュールを生成する過程で埋め込み、

前記コンパイル実行手段は、前記ロードモジュールを実行することにより埋め込まれた前記プロファイル更新処理を実行し、前記記憶した第 1 のプロファイル情報を参照して第 2 のプロファイル情報を生成して前記記憶手段に出力し、

前記ソースプログラム変換手段は、前記第 2 のプロファイル情報に基づいて、前記第 1 の文字コードに対応した前記記憶したソースプログラムを前記第 2 の文字コードに対応したソースプログラムに変換することを特徴とするコンパイル装置。

## 【請求項 5】

記憶手段に記憶した第 1 の文字コードに対応したソースプログラムを第 2 の文字コードに対応したソースプログラムに変換するためにコンパイル装置を機能させるコンパイルプログラムであって、

前記コンパイル装置は、プロファイル情報出力手段と、プロファイル更新処理埋込手段と、コンパイル実行手段と、ソースプログラム変換手段とを備え、

前記プロファイル情報出力手段は、前記第 1 の文字コードに対応したソースプログラムのプロファイル情報を解析して第 1 のプロファイル情報を生成して前記記憶手段に出力するステップを有し、

前記プロファイル更新処理埋込手段は、ロードモジュールの実行時に必要なプロファイル更新処理を、前記第 1 の文字コードに対応したソースプログラムからロードモジュールを生成する過程で埋め込むステップを有し、

前記コンパイル実行手段は、前記ロードモジュールを実行することにより埋め込まれた前記プロファイル更新処理を実行し、前記記憶した第 1 のプロファイル情報を参照して第 2 のプロファイル情報を生成して前記記憶手段に出力するステップを有し、

前記ソースプログラム変換手段は、前記第 2 のプロファイル情報に基づいて、前記第 1 の文字コードに対応した前記記憶したソースプログラムを前記第 2 の文字コードに対応したソースプログラムに変換するステップを有することを特徴とするコンパイルプログラム。

## 【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0007

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0007】

本発明によれば前記目的は、記憶手段に記憶した第 1 の文字コードに対応したソースプログラムを第 2 の文字コードに対応したソースプログラムに変換するコンパイル装置におけるコンパイル方法において、前記コンパイル装置は、プロファイル情報出力手段と、プロファイル更新処理埋込手段と、コンパイル実行手段とを備え、前記プロファイル情報出力手段は、前記第 1 の文字コードに対応したソースプログラムのプロファイル情報を解析して第 1 のプロファイル情報を生成して前記記憶手段に出力し、前記プロファイル更新処理埋込手段は、ロードモジュールの実行時に必要なプロファイル更新処理を、前記第 1 の文字コードに対応したソースプログラムからロードモジュールを生成する過程で埋め込み

、前記コンパイル実行手段は、前記ロードモジュールを実行することにより埋め込まれた前記プロファイル更新処理を実行し、前記記憶した第1のプロファイル情報を参照して第2のプロファイル情報を生成して前記記憶手段に出力することにより達成される。